

《令和7年度 研究会活動紹介》

研究会名	代表者氏名
近世唱導文芸研究会	北林 茉莉代
研究会名 略称:近世唱導	所 属:創価大学学士課程教育機構
活動紹介	
<p>【活動内容】 近世唱導文芸研究会では、大正大学図書館に所蔵されている近世の唱導文献を主たる対象として、本文の翻刻、読解、引用文献資料の検討等を行っている。令和五年度までは内典・外典等からの抜き書きを分類配列した『類雑集』を対象とし、全十巻の翻刻および出典研究等を行ってきた。 令和六年度以降は、仏教説話集『宝物集』を研究対象としている。『宝物集』は中世の成立と考えられるが、近世においても多く受容されており、その展開や流布のあり方について検討が必要である。また、一卷本系、三巻本系、七巻本系と、多岐にわたる諸本系統が確認されており、本文研究が重要となる。そのため、本研究会では本文の注釈作業を進めるとともに、特徴的な伝本の实地調査を行っている。</p>	
<p>【活動実績】※出版/論文/受賞・研究助成の経歴など 『除睡鈔——翻刻と研究——』岩田書院(大正大学総合仏教研究所叢書、第24巻、2008年) 「『類雑集』翻刻[一]～[十]」『大正大学総合仏教研究所年報』33号～42号(2011年～2020年) 「『類雑集』の出典(その1)～(その2)」『大正大学総合仏教研究所年報』43～44号(2021～2022年) 「『類雑集』の動物表現(その1)～(その2)」『大正大学総合仏教研究所年報』45～46号(2023～2024年) など</p>	
<p>【令和7年度活動計画】 今年度は、第二種七巻本系統の『宝物集』を研究対象とし、本文の注釈作業を進める。その成果は『大正大学総合仏教研究所年報』に順次掲載予定である。 本研究会は、本学名誉教授、本学教員、大学院修了者が所属し、連携を取りつつ研究を進めている。平時には対面・オンラインを併用して注釈の発表や検討を行い、長期休業期間には实地調査を行う。</p>	